

構造設計標準仕様

適用は 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

- (1) 工事名称
建築場所
- (2) 工事種別 新築 増築 増改築 改築
- (3) 構造種別
木造(W) 補強コンクリートブロック造(CB) 鉄骨造(S)
鉄筋コンクリート造(RC) 壁式鉄筋コンクリート造(WRC)
鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC) 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造(WPRC)
プレキャスト鉄筋コンクリート造(PCR)
- (4) 階数
地下 | 階 地上 | 階 塔屋 | 階
- (5) 主要用途
- (6) 屋上付属物
広告塔 高架水槽 ton
煙突 キュービクル ton
- (7) 増築計画 有 () 無
- (8) 付帯工事
門扉 擁壁
エレベータ 人乗(ロープ式 油圧式) リフト ton ホイスト ton
倉庫積載床用 kg/m² 受水槽 ton
- (9) 特別な荷重
- (10) その他

2. 使用構造材料

(1) コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度 Fc=kg/cm ²	スランプcm	備考
給コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	135, 150	15	
土間コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	180, 210,		1階スラブまで
基礎、基礎梁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	180, 210, 240	18	躯体防水材入とする
柱、梁、床、壁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通、軽集	180, 210, 240	18	比重 2.3
	<input checked="" type="checkbox"/> 普通、軽集	180, 210, 240		比重
押えコンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通、 <input checked="" type="checkbox"/> 軽集	135, 150, 180	15	比重

- (2) コンクリートブロック(CB)
A種 B種 C種 厚100, 120, 150, 190

(3) 鉄筋

種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	<input checked="" type="checkbox"/> SD30A	D16以下	<input checked="" type="checkbox"/> 重ね継手
	<input type="checkbox"/> SD30B		
	<input checked="" type="checkbox"/> SD35	D19以上	<input type="checkbox"/> ガス圧接継手
丸鋼	<input type="checkbox"/> SR24		<input type="checkbox"/> 特殊継手
溶接金網	<input type="checkbox"/>		

(4) 鉄骨

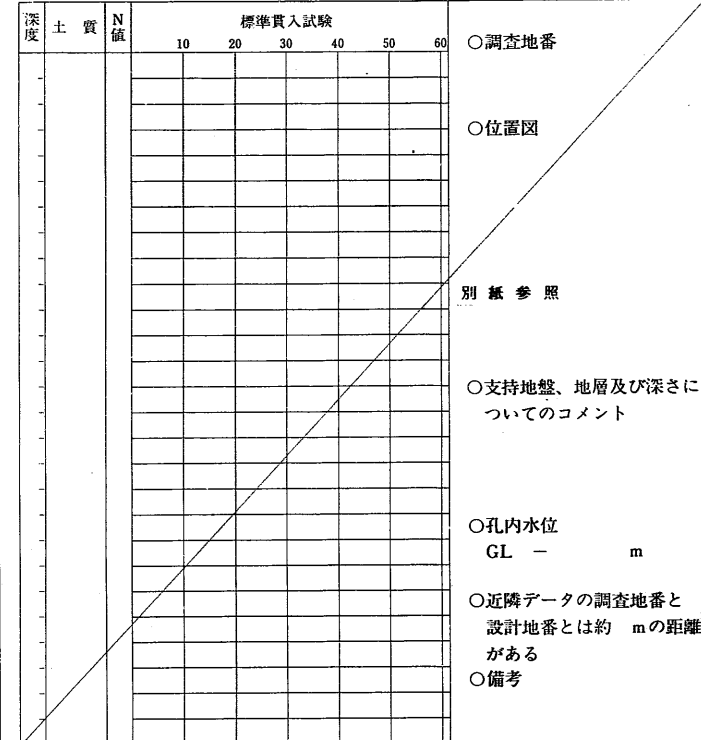
種類	使用箇所	現場溶接	備考
<input checked="" type="checkbox"/> SS41 <input type="checkbox"/> SM41A,B		<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> STKR41 <input type="checkbox"/> STKR50		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> SM50A,B		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> SSC41		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	

- (5) ボルト
高力ボルト 普通、F10T 特殊、S10T 認定品(M12, M16, M20, M22)
中ボルト φ= 高力ボルトすべり係数試験 要 否
アンカーボルト SS41 φ= 16 L=600 mm ナット(シングル、ダブル)
φ= L= mm
スタッドボルト φ= L= mm

- (6) 屋根、床、壁 使用箇所
- ALC版 厚 H= 厚
折版 型式 H= 厚
デッキプレート 型式 厚
キーストンプレート 型式 厚
特殊デッキプレート

3. 地盤

- (1) 地盤調査資料
有 (敷地内 近隣) ボーリング調査 平板載荷試験 水半地盤反力係数の測定
地 (調査予定 有 無)
- (2) 地盤調査計画
ボーリング調査 静的貫入試験 標準貫入試験 水半地盤反力係数の測定
土質試験 物理探査 平板載荷試験
- (3) 地盤調査及び試験の結果により、杭長、杭径、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある
- (4) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・杭の位置を明記すること)



4. 地業工事

- (1) 直接基礎 ベタ基礎 布基礎 独立基礎 試験場 有 無
深さ GL - m、支持層 - 長期許容支持力度 t/m² 載荷試験 有 無
- (2) 杭基礎 支持層 - 砂レキ層

杭種	材料	施工法	備考
<input type="checkbox"/> RC <input type="checkbox"/> PC	PC (<input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種)	<input type="checkbox"/> 打ち込み	
<input type="checkbox"/> PHC <input type="checkbox"/> H鋼	PHC (<input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種)	<input type="checkbox"/> 埋込み(セメントミルク工法)	
<input type="checkbox"/> 鋼管 <input type="checkbox"/> 摩擦杭	鋼材 <input type="checkbox"/> SS41 <input type="checkbox"/> STK41	<input type="checkbox"/>	大田認定第 号
			年月日
現場所打ち コンクリート杭	コンクリート Fc=240 セメント量 kg/m ³ 鉄筋 上筋 SD35 HOOP SD30A	<input type="checkbox"/> オールケーシング <input type="checkbox"/> 掘削杭 <input type="checkbox"/> リバースサーキュレーション <input checked="" type="checkbox"/> アースドリル <input type="checkbox"/> ミニアース <input type="checkbox"/> 手掘 <input type="checkbox"/> 機械掘	掘削杭 日本建築センター認定 第 号 年月日

- 杭仕様 施工計画書承認 杭施工結果報告書
試験杭 (有・無) (打ち込み・載荷) 2本

杭径(mm)	設計支持力(t)	杭の先端の深さ(m)	本数	特記事項
900	135 ^D	GL-21.55	7	
1,000	170 ^D	〃	10	
1,100	205 ^D	〃	2	
1,300	280 ^D	〃	8	

5. 鉄筋コンクリート工事

- (1) コンクリート
コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5による。
セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
調合計画は、工事開始前に工事監督者の承認を得ること。
寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監督者の承認を得ること。
フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体(JASS5T-603)は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。また、打ち込み量が150m³をこえる場合は150m³ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。
ポンプ打ちコンクリートは、打ち込み位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。
- (2) 鉄筋
鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。
鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。
D19未満は、すべて重ね継手とする。継手(D19以上)をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと(200箇所を超えときは、200箇所ごと)に1回行い、1回の試験は3本以上とする。外観検査 有 無、引張試験 有 無、超音波探傷試験 有 無
柱の帯筋(HOOP)の加工方法は、H型(タガ型) W型(溶接型) S型(スパイラル型)とする。
コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い綱」第4条の試験機関で行うこと。
試験機関名
代行業者名
代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。
- (3) 型枠
材料 合板厚 12%を標準とする。
型枠設置期間

種別	せき板				支柱			
	基礎、はり側、柱、壁	スラブ、はり下	スラブ	はり下	基礎、はり側、柱、壁	スラブ、はり下	スラブ	はり下
セメントの種類	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント
強度	高強度セメントA種	高強度セメントA種	高強度セメントA種	高強度セメントA種	高強度セメントA種	高強度セメントA種	高強度セメントA種	高強度セメントA種
平均気温	15℃以上	5℃-15℃	5℃未満	5℃未満	15℃以上	5℃-15℃	5℃未満	5℃未満
コンクリートの圧縮強度	2	3	4	6	8	17	28	28
	3	5	6	10	12	25	28	28
	5	8	10	16	15	28	28	28
	設計基準強度の50%				設計基準強度の85%			
	50kg/cm ²				100%			

- 注1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監督者の指示による。
注2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
注3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監督者の指示による。

6. 鉄骨工事

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
日本建築学会「JASS6」「鉄骨工事技術指針」
鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
- (2) 工事監督者の承認を必要とするもの
製作工場 製作要領書 工作図 施工計画書
建設省告示第1103号による認定工場(大臣認定 グレード登録 ランク)
材料規格証明書または試験成績書
鋼材 高力ボルト 特殊ボルト スタッドボルト
社内検査表
- (3) 工事監督者に検査報告連絡し指示を受けるもの
現寸検査 組立・開先検査 製品検査
建方検査
- (4) 接合部の溶接は下記によること
東京都アーク溶接工事管理規程 (建築構造設計指針第12章)
鉄骨造建築物の溶接工事に関する指導指針(建築構造設計指針第12章)
日本建築学会「溶接工作規程、同解説I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」
- (5) 溶接及び接合部を検査し工事監督者に報告すること
溶接部及び接合部の検査報告

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備考
		社内	第三者	工事監督者	
<input type="checkbox"/> 突合せ溶接部	超音波探傷試験	%	%	%	
	外観(目視)検査	%	%	%	
<input type="checkbox"/>	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名					
第三者検査機関とは、建築主、工事監督者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

- 注) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。
- 高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グライナー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態ですべり係数が0.45以上確保できるものを標準とし目視により検査を行う。
高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として2度締めとする。締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行なわれているか検査する。
- (6) 防錆塗装
防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、JIS K5625、2回塗りを標準とする。
現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。
- (7) 耐火被覆の材料

7. 設備関係

- 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
設備機器の架台及び基礎については工事監督者の承認を得ること。
床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を5cm以上とする。

8. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監督者に報告すること。

年度	板橋区立	設計	設計図
図名	構造設計標準仕様	縮尺	1/20
図番		図番	S-1
板橋区建築環境部営繕課			

鉄筋コンクリート構造標準配筋図

東京都財務局

1 柱筋の常用かぶり厚さ(mm)

部 位	かぶり厚さ (mm)
土に接しない部分	
縦筋	30
横筋	40
土に接する部分	
縦筋	40
横筋	60
柱・はり・床スラブ・耐力壁	50
梁	70
場所打ちコンクリート	120

(注) (1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、保員の承認を受けて30mmとすることができる。
 (2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、保員の承認を受けて40mmとすることができる。
 (3) コンクリートの品質および施工方法に並び、保員の承認を受けて40mmとすることができる。

2 鉄筋の折曲げ

折曲げ角度	部 位	鉄筋の種類	折曲げ内径の寸法 (mm)
180°	SD 30A SD 30B SD 35	16φD16以下3φ以上出 D19-D38 4φ以上出	
135°			
90°			

(注) (1) 4は、異形鉄筋の呼び名に用いた数値とする。
 (2) 折曲げ角度90°は、スラブ筋・耐力壁筋またはスラブと同時に打ち込むT形およびL形に用いるU字形あばら筋とタイのみを用いる。
 (3) 片持スラブの上端の先端、壁の自由端に用いる先端の余長は4d以上とする。

折曲げ角度	部 位	鉄筋の種類	鉄筋の折曲げ内径の寸法 (mm)
90°以下	SD 30A SD 30B SD 35	16φD16以下3φ以上出 D19-D38 4φ以上出 D19-D25 6φ以上出 D29-D38 6φ以上出	

下記に示す鉄筋の末端部には、フックを付ける。
 (1) あばら筋および耐力壁筋
 (2) 柱およびはり(基礎ばりを除く)の出隅部の鉄筋
 (3) 煙突の鉄筋

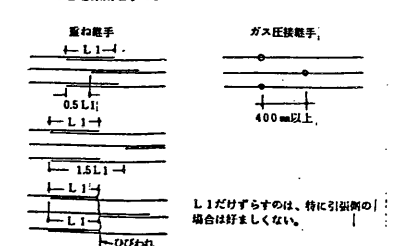
3 鉄筋の継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計標準強度 (kg/cm ²)	重ね継手長さ (L1)
SD 30A SD 30B SD 35	180	45dまたは35φフック付
	210	
	225	
	240	40dまたは30φフック付

(1) 柱の異なる鉄筋の重ね継手の長さは同じdによる。
 (2) 特記のない限り、D20以上の異形鉄筋には、原則として重ね継手を付けてはならない。
 (3) 重ね継手の異なる鉄筋は、密着させるのが原則であるが、断面図に示すような重ね継手も同等に有効である。
 (4) 応力を負担しない腹筋等の継手長さは上記にかかわらず15φ程度でよい。



(5) ガス圧継手の仕様は、社団法人「鉄筋のガス圧継手標準仕様書」による。
 (6) 継手は、1か所に集中することなく、相互にずらして設けることを原則とする。

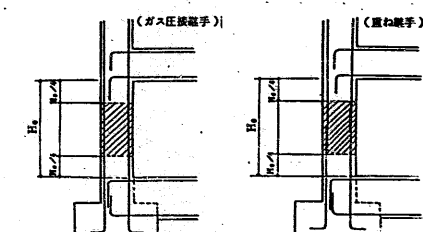


4 鉄筋の定着の長さ

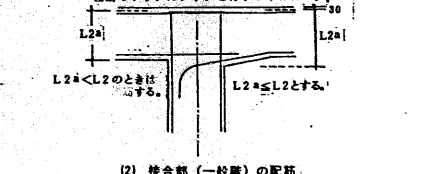
コンクリートの設計標準強度 (kg/cm ²)	鉄筋の種類	定着の長さ (L2)
180	SD 30A SD 30B SD 35	40dまたは30φフック付 25φまたは15φフック付 15φフック付
210		
225		
240		

(注) (1) 床版のフックは定着長さに含まない。
 (2) dは異形鉄筋の呼び名に用いた数値とする。
 (3) はりおよび小はり筋の定着のための中間折曲げがある場合は、表中の定着長さに加え、折曲げの中心を超えてから折曲げの長さ、一般定着L2とする。
 (4) 前記スラブの下層筋の長さは、一般定着L2とする。

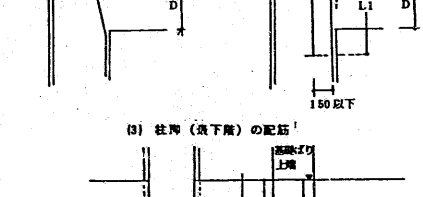
5 柱主筋の継手位置及び継手定着長さ(mm)



(1) 柱筋(筋上層)の配筋は、ハンチングはハンチング付とする。
 (2) 柱筋(筋下層)の配筋は、ハンチングはハンチング付とする。

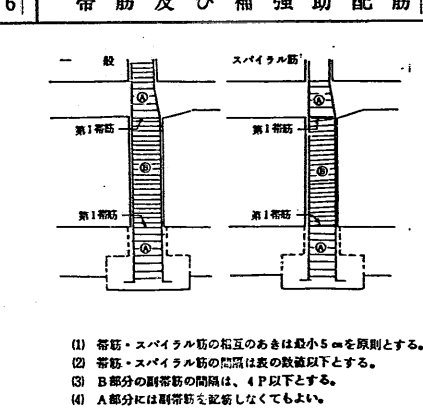


(3) 柱筋(筋下層)の配筋は、ハンチングはハンチング付とする。



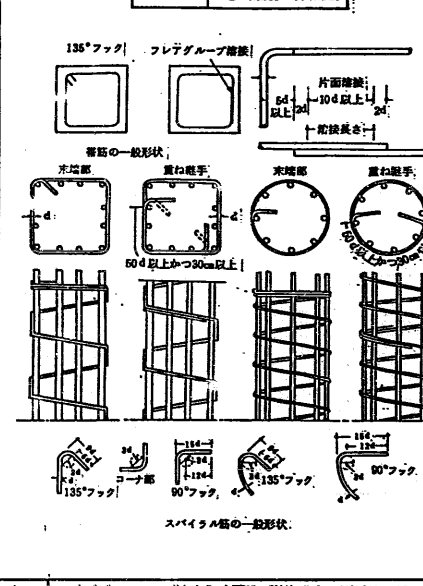
(4) 柱筋(筋下層)の配筋は、ハンチングはハンチング付とする。

6 帯筋及び補強助配筋

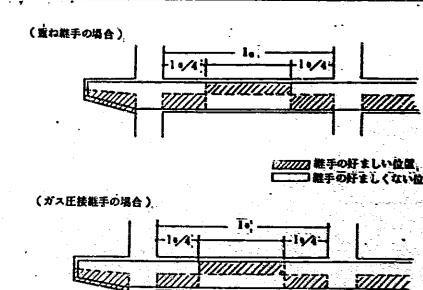


(1) 帯筋・スパイラル筋の相互のあきは最小5φを原則とする。
 (2) 帯筋・スパイラル筋の相互のあきは表の数値以下とする。
 (3) B部分の副帯筋の間隔は、4φ以下とする。
 (4) A部分には副帯筋を配筋しなくてもよい。

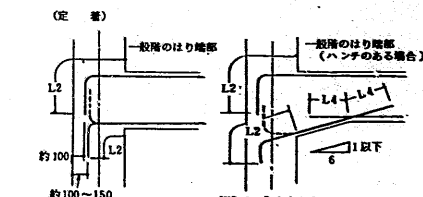
部 位	D10以上
A	15φ以下 (L2以下)
B	(P:設計標準強度) 10φ以下
部 位	0.2φ以上
備 考	床版135°フック、耐力壁などの閉鎖形の耐力筋



7 はり主筋の継手位置及び継手定着長さ(mm)

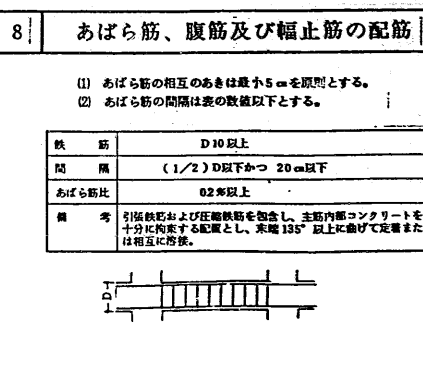


(1) はり主筋の継手位置及び継手定着長さは、表中の数値とする。

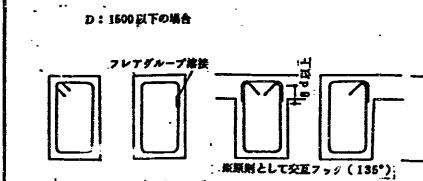


(2) はり主筋の継手位置及び継手定着長さは、表中の数値とする。

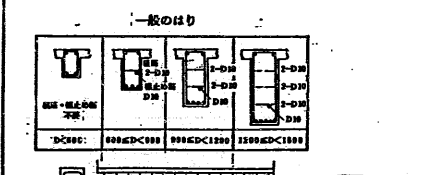
8 あばら筋、腹筋及び幅止筋の配筋



(1) あばら筋の相互のあきは最小5φを原則とする。
 (2) あばら筋の間隔は表の数値以下とする。



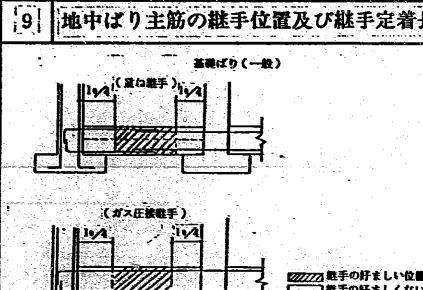
(1) あばら筋の相互のあきは最小5φを原則とする。
 (2) あばら筋の間隔は表の数値以下とする。



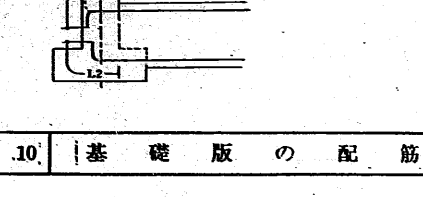
(1) あばら筋の相互のあきは最小5φを原則とする。
 (2) あばら筋の間隔は表の数値以下とする。

はりせい	部 位
D < 600	不 要
600 ≤ D < 1050	2-D13 (1本)
1050 ≤ D < 1500	4-D13 (2本)
1500 ≤ D < 1950	6-D13 (3本)
1950 ≤ D < 2400	8-D13 (4本)

9 地中はり主筋の継手位置及び継手定着長さ

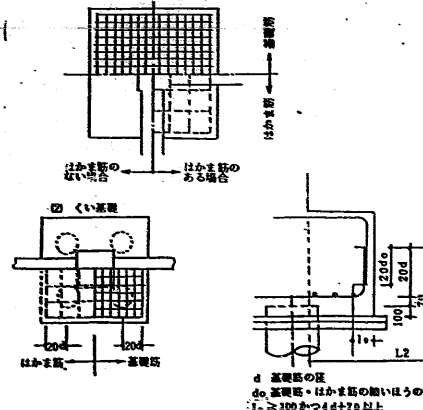


(1) 地中はり主筋の継手位置及び継手定着長さは、表中の数値とする。

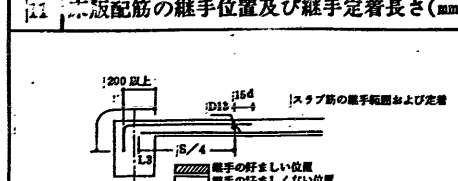


(2) 地中はり主筋の継手位置及び継手定着長さは、表中の数値とする。

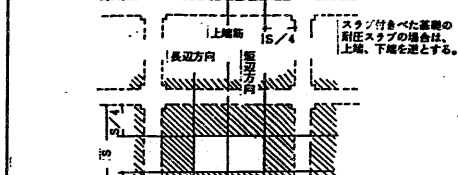
10 基礎版の配筋



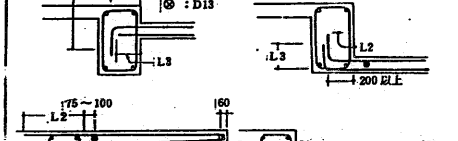
(1) 基礎版の配筋は、表中の数値とする。



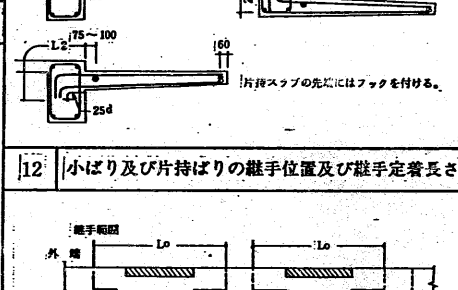
(1) 基礎版の配筋は、表中の数値とする。



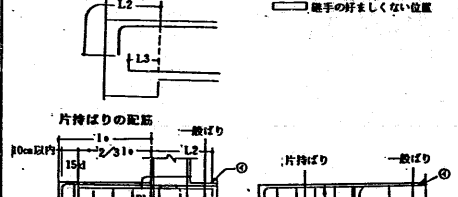
(1) 基礎版の配筋は、表中の数値とする。



11 基礎版の配筋

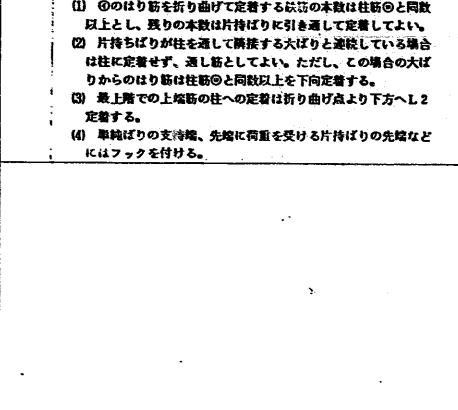


(1) 基礎版の配筋は、表中の数値とする。

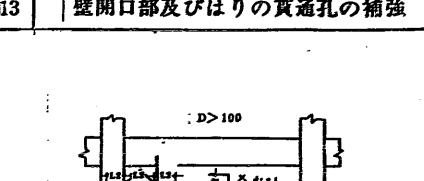


(1) 基礎版の配筋は、表中の数値とする。

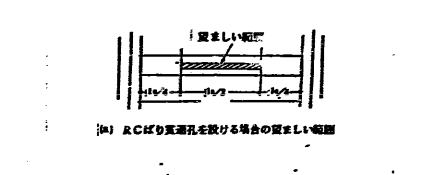
12 小はり及び片持ばりの継手位置及び継手定着長さ



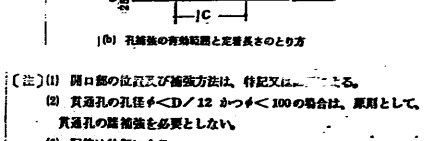
(1) 小はり及び片持ばりの継手位置及び継手定着長さは、表中の数値とする。



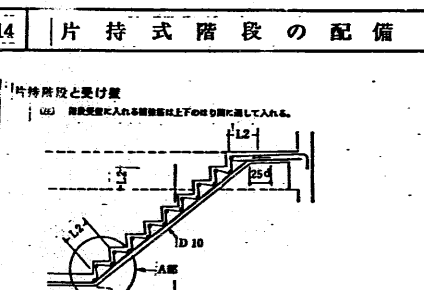
(1) 壁開口部及びはりの貫通孔の補強は、表中の数値とする。



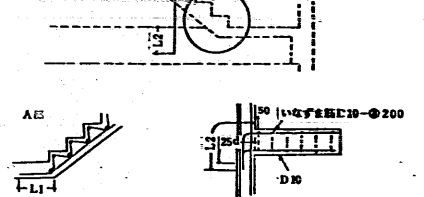
(1) 壁開口部及びはりの貫通孔の補強は、表中の数値とする。



13 壁開口部及びはりの貫通孔の補強

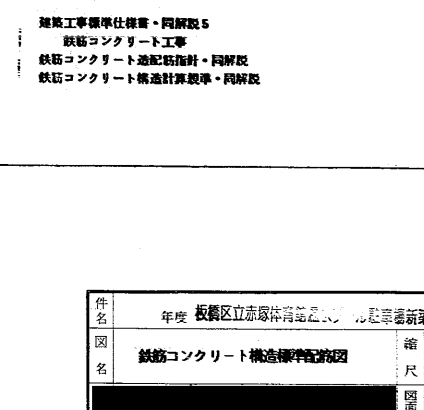


(1) 壁開口部及びはりの貫通孔の補強は、表中の数値とする。



(1) 壁開口部及びはりの貫通孔の補強は、表中の数値とする。

14 片持式階段の配筋



(1) 片持式階段の配筋は、表中の数値とする。

1. 本図は、鉄筋コンクリート構造の配筋についての標準を示す。
 2. その他の配筋については、特記又は断面による。

主な参考文献 (日本建築学会)
 建築工事標準仕様書・同解説5
 鉄筋コンクリート工事
 鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説
 鉄筋コンクリート構造計算標準・同解説

年度 板橋区立赤塚南小学校 建築環境部 設計図
 図名 鉄筋コンクリート構造標準配筋図
 縮尺 S-2

板橋区建築環境部 管轄課

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

L=鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-3による。

7. 大梁、小梁、片持梁

(1) 定着

①大梁

②小梁の定着

③片持梁の定着

(2) 大梁主筋の継手

(3) あばら筋、腹筋、幅止めの配置

(4) あばら筋の型

(5) 幅止め筋の本数、加工

取筋	D < 600 不要
	600 ≤ D < 900 2-D10(9φ) 1段
	900 ≤ D < 1200 4-D10(9φ) 2段
	1200 ≤ D D10(9φ) @300以内
幅止め筋	D10(9φ) @100以内で割り付ける

8. 床板

(1) 定着および継手

①片持床スラブ

②一般床スラブ

(2) 屋根スラブの補強

(3) 片持ちスラブ出隅部補強

(4) 床板開口部の補強(開口の径500以上の場合)

床板厚さD	周囲	斜め
D ≤ 150	各2-D13	各1-D13
150 < D ≤ 200	各2-D13	各2-D13
200 < D ≤ 300	各2-D19	各2-D16

(5) 床板段差

(6) 土間コンクリート

(7) 釜場

(8) 打継ぎ補強(ダマ穴打継ぎについて)

9. 壁

(1) 定着

①梁に

②床に

(2) スリット部(設計図に記入のあるとき)

(3) 手摺、バラベツト

(4) コンクリートブロック積置

注) h ≤ 25tかつ3500以下とする。但し直交方向25t以内に壁、又は柱がある場合は除く
注) hはコンクリートブロック積置測定法とする。但し、200 ≤ h ≤ 400
注) 継手は必ずモルタルをてん充すること

10. 柱、梁増打コンクリート補強

(1) 柱

ハッチ部分の面積 A_増

補強ゲージ	A < 500	500 ≤ A < 1000	1000 ≤ A < 1500
	3-D16	4-D16	6-D16

(2) 梁

補強筋は、梁主筋の1段目(径D16以上)とする。
あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
腹筋D10ピッチは、梁の断面と合せる。
D ≥ 400の場合は補強筋を3本とする。
aは100-200程度。
梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

11. 梁貫通孔補強

(1) 設置可能範囲

梁端部(スパンL/10以内かつ2D以内)は避ける

(2) 鉄筋標準配筋 但し φ ≤ D/3とする

80 < φ ≤ 100 折筋 2-(2-D13) 縦筋 ST 2-D13-100@	100 < φ ≤ 150 折筋 2-(2-D13) 縦筋 ST 2-D13-100@ 横筋 2-(2-D13)	150 < φ ≤ 250 斜筋 4-(2-D13) 縦筋 ST 2-D13-100@ 横筋 2-(2-D13) 半縦筋 ST 2-D13
--	---	---

φ > 250
孔補強の有効範囲と定着長さのとり方
※部分について計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらなくて良い。

12. 増築予定

(1) 柱、梁 (2) 地中梁 (3) 床版、壁

増築するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと

年度 板橋区立赤塚南有造公園プール児童遊園地工事 設計図

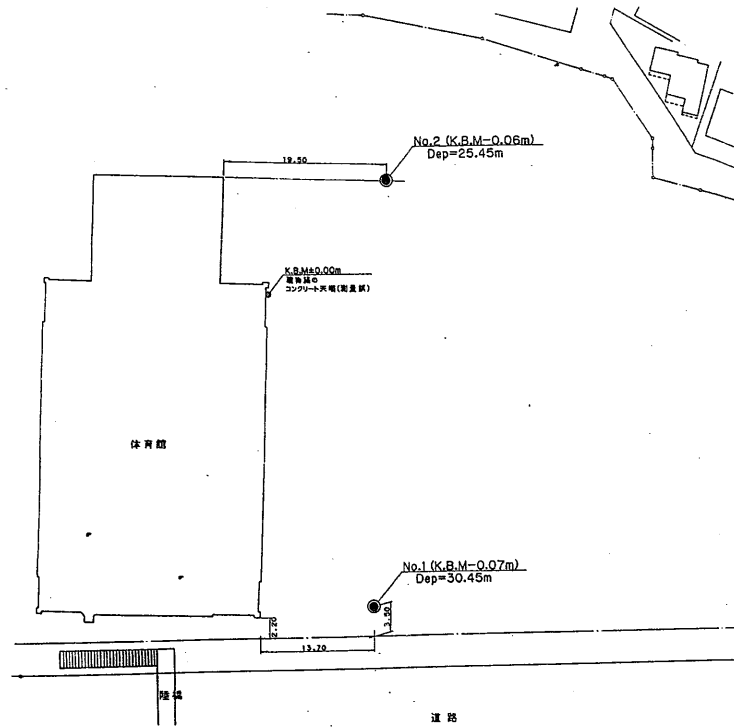
図名 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

縮尺

図面番号 S-4

板橋区建築環境部営繕課

調査地点位置図



柱状-BASE

調査名 板橋区立赤塚体育館温水プール建設
及びトレーニングルーム増強に係る
地盤調査委託
調査位置 東京都板橋区赤塚五丁目6番1号
地点番号 No. 1
標高 KBM=0.07 m
調査年月日 3年 4月30日～ 5月 2日
孔内水位 GL=-10.10 m
担当者名

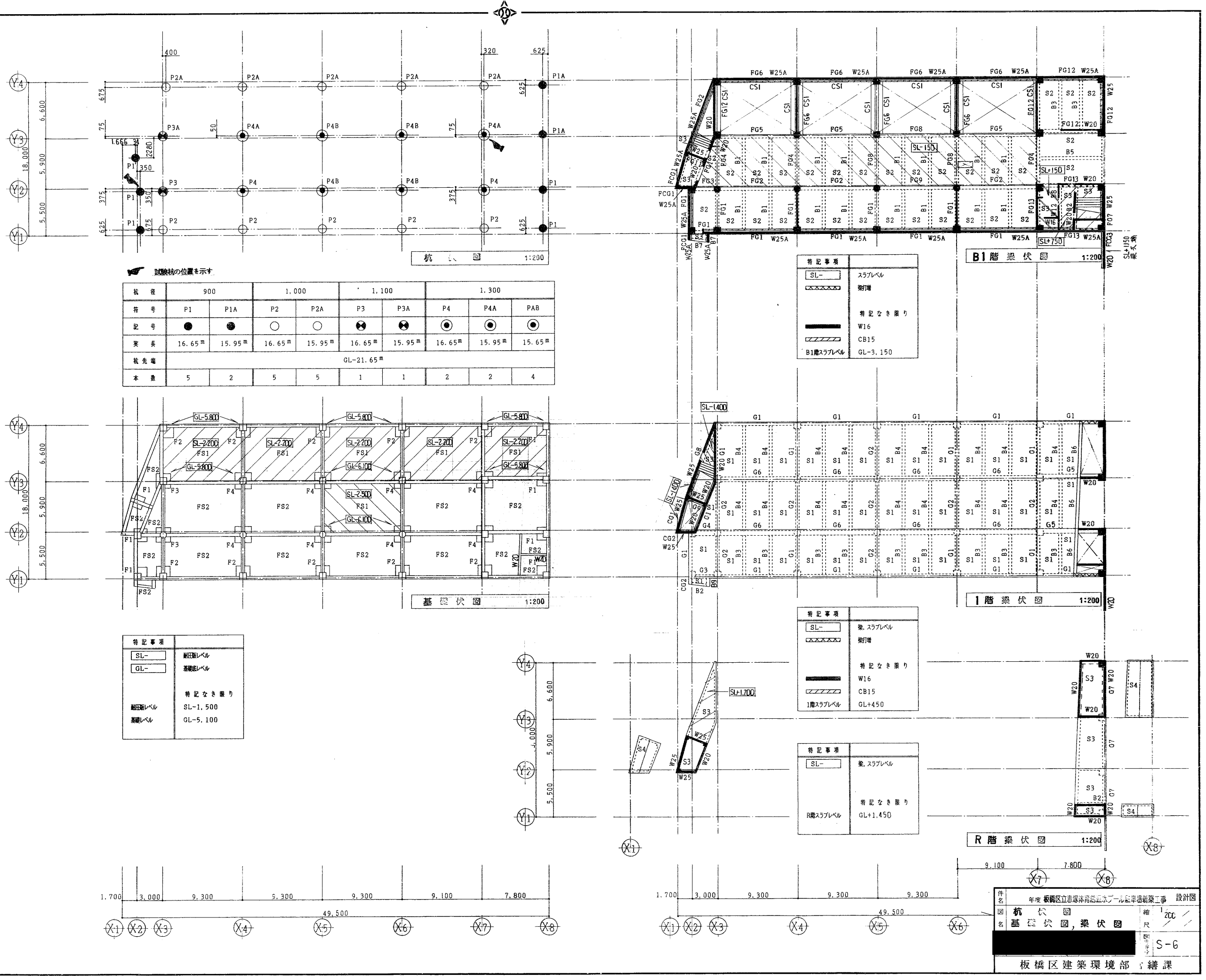
標尺 (m)	標高 (m)	深 度 (m)	土質記号	試料採取	土質名	色 調	記 事	標準貫入試験 (N 値)							
								深 度 (m)	10cm毎の打撃回数 (N)	10	20	30	40	50	
0.07	0.00	0.00					ローム主体で、礫及びガラクタ混入。	1.15	2/35	1/15	1/10	1/10			
1		2.00					2.1m以深、ガラ主体。	2.00	50	50	50	50			
2		3.00						3.00	50	50	50	50			
3		4.17	4.10	4.10			埋土 (ローム) 暗褐色	4.15	5	1	2	2			
4		5.72	5.65	5.65			炭屑片、スコリア混入	4.45	30	10	10	10			
5		6.92	6.85	6.85			スコリア、浮石混入	5.15	4	1	2	2			
6		7.45	7.45	7.45			7.2m以深、粘性強い腐植質、浮石、スコリア混入。	6.15	2	1	1	1			
7		8.45	8.45	8.45			含水多い。	7.45	30	15	15	15			
8		9.37	9.30	9.30			上部、砂分少ない、11.5m以深、シルト分多。	8.15	7	3	3	3			
9		11.07	11.00	11.00			腐植質、浮石混入。最大φ30mm程度の粗粒主体。最大φ50mm程度の粗粒主体。下部、砂分多い。	8.45	30	10	10	10			
10		12.57	12.50	12.50			上部、砂分少ない、11.5m以深、シルト分多。	9.15	11	3	4	4			
11		14.27	14.20	14.20			腐植質、浮石混入。上部、砂分少ない、11.5m以深、シルト分多。	10.45	30	20	10	10			
12		14.67	14.60	14.60			腐植質、浮石混入。上部、砂分少ない、11.5m以深、シルト分多。	10.45	30	20	10	10			
13		16.02	15.95	15.95			腐植質、浮石混入。上部、砂分少ない、11.5m以深、シルト分多。	11.15	20	9	4	7			
14		17.02	16.95	16.95			腐植質、浮石混入。上部、砂分少ない、11.5m以深、シルト分多。	11.45	30	10	10	10			
15		17.45	17.40	17.40			腐植質、浮石混入。上部、砂分少ない、11.5m以深、シルト分多。	11.45	30	10	10	10			
16		17.45	17.40	17.40			腐植質、浮石混入。上部、砂分少ない、11.5m以深、シルト分多。	11.45	30	10	10	10			
17		19.15	19.10	19.10			腐植質、浮石混入。上部、砂分少ない、11.5m以深、シルト分多。	11.45	30	10	10	10			
18		19.45	19.40	19.40			腐植質、浮石混入。上部、砂分少ない、11.5m以深、シルト分多。	11.45	30	10	10	10			
19		20.15	20.10	20.10			腐植質、浮石混入。上部、砂分少ない、11.5m以深、シルト分多。	11.45	30	10	10	10			
20		21.15	21.10	21.10			腐植質、浮石混入。上部、砂分少ない、11.5m以深、シルト分多。	11.45	30	10	10	10			
21		21.26	21.20	21.20			腐植質、浮石混入。上部、砂分少ない、11.5m以深、シルト分多。	11.45	30	10	10	10			
22		22.15	22.10	22.10			腐植質、浮石混入。上部、砂分少ない、11.5m以深、シルト分多。	11.45	30	10	10	10			
23		23.37	23.30	23.30			腐植質、浮石混入。上部、砂分少ない、11.5m以深、シルト分多。	11.45	30	10	10	10			
24		24.45	24.40	24.40			腐植質、浮石混入。上部、砂分少ない、11.5m以深、シルト分多。	11.45	30	10	10	10			
25		25.15	25.10	25.10			腐植質、浮石混入。上部、砂分少ない、11.5m以深、シルト分多。	11.45	30	10	10	10			
26		26.15	26.10	26.10			腐植質、浮石混入。上部、砂分少ない、11.5m以深、シルト分多。	11.45	30	10	10	10			
27		27.15	27.10	27.10			腐植質、浮石混入。上部、砂分少ない、11.5m以深、シルト分多。	11.45	30	10	10	10			
28		28.45	28.40	28.40			腐植質、浮石混入。上部、砂分少ない、11.5m以深、シルト分多。	11.45	30	10	10	10			
29		29.15	29.10	29.10			腐植質、浮石混入。上部、砂分少ない、11.5m以深、シルト分多。	11.45	30	10	10	10			
30		30.45	30.45	30.45			腐植質、浮石混入。上部、砂分少ない、11.5m以深、シルト分多。	11.45	30	10	10	10			

柱状-BASE

調査名 板橋区立赤塚体育館温水プール建設
及びトレーニングルーム増強に係る
地盤調査委託
調査位置 東京都板橋区赤塚五丁目6番1号
地点番号 No. 2
標高 KBM=0.06 m
調査年月日 3年 4月30日～ 5月 2日
孔内水位 GL=-6.55 m
担当者名

標尺 (m)	標高 (m)	深 度 (m)	土質記号	試料採取	土質名	色 調	記 事	標準貫入試験 (N 値)							
								深 度 (m)	10cm毎の打撃回数 (N)	10	20	30	40	50	
0.06	0.00	0.00					ローム主体、コブクリート片混入。	1.15	4	1	2	2			
1		1.48					1.8mから、暗褐色となる。	1.48	33	13	7	13			
2		2.49					2.6mから、褐色となる。	2.49	34	20	13				
3		3.15					炭化物混入。	3.15	7	1	1	1			
4		4.15					腐植質、浮石混入。	4.15	3	1	1	1			
5		5.15					腐植質、浮石混入。	4.53	38	18	11	9			
6		6.15					腐植質、浮石混入。	5.15	2	1	1	1			
7		7.15					腐植質、浮石混入。	5.46	31	16	15				
8		8.15					腐植質、浮石混入。	6.15	1	1	1	1			
9		9.15					腐植質、浮石混入。	6.45	30	10	10				
10		10.45					腐植質、浮石混入。	7.15	5	2	1	2			
11		11.26					腐植質、浮石混入。	7.45	30	15	5	10			
12		12.40					腐植質、浮石混入。	8.15	6	2	2	2			
13		13.15					腐植質、浮石混入。	8.50	35	10	15				
14		14.15					腐植質、浮石混入。	9.15	7	2	2	3			
15		15.15					腐植質、浮石混入。	9.45	30	10	10	10			
16		16.15					腐植質、浮石混入。	10.15	13	4	4	5			
17		17.15					腐植質、浮石混入。	10.45	30	10	10	10			
18		18.15					腐植質、浮石混入。	11.15	50	10	40	4			
19		19.15					腐植質、浮石混入。	11.20	14	4	4	5			
20		20.15					腐植質、浮石混入。	12.15	50	17	18	15			
21		21.15					腐植質、浮石混入。	12.40	25	10	10	5			
22		22.15					腐植質、浮石混入。	13.15	50	6	6	6			
23		23.15					腐植質、浮石混入。	13.22	7	7					
24		24.15					腐植質、浮石混入。	14.15	50	50	8				
25		25.15					腐植質、浮石混入。	14.23	8	8					
26		26.15					腐植質、浮石混入。	15.15	48	21	17	10			
27		27.15					腐植質、浮石混入。	15.45	30	10	10	10			
28		28.15					腐植質、浮石混入。	16.15	47	20	17	10			
29		29.15					腐植質、浮石混入。	16.45	30	10	10	10			
30		30.45					腐植質、浮石混入。	17.15	18	4	5	9			

年度 板橋区立赤塚体育館温水プール建設新築工事 設計図
 図名 地質柱状図 縮尺 1/20
 図面番号 S-5
 板橋区建築環境部営繕課



試験柱の位置を示す

柱径	900		1,000		1,100		1,300	
符号	P1	P1A	P2	P2A	P3	P3A	P4	P4A
記号	●	●	○	○	●	●	●	●
架長	16.65 ^m	15.95 ^m	16.65 ^m	15.95 ^m	16.65 ^m	15.95 ^m	16.65 ^m	15.95 ^m
板先端	GL-21.65 ^m							
本数	5	2	5	5	1	1	2	2

特記事項	
SL-	新設スラブレベル
GL-	基礎レベル
新設スラブレベル	特記なき限り SL-1.500
基礎レベル	GL-5.100

特記事項	
SL-	スラブレベル
XXXX	梁端
—	特記なき限り
—	W16
—	CB15
B1階スラブレベル	GL-3.150

特記事項	
SL-	新設スラブレベル
XXXX	梁端
—	特記なき限り
—	W16
—	CB15
1階スラブレベル	GL+450

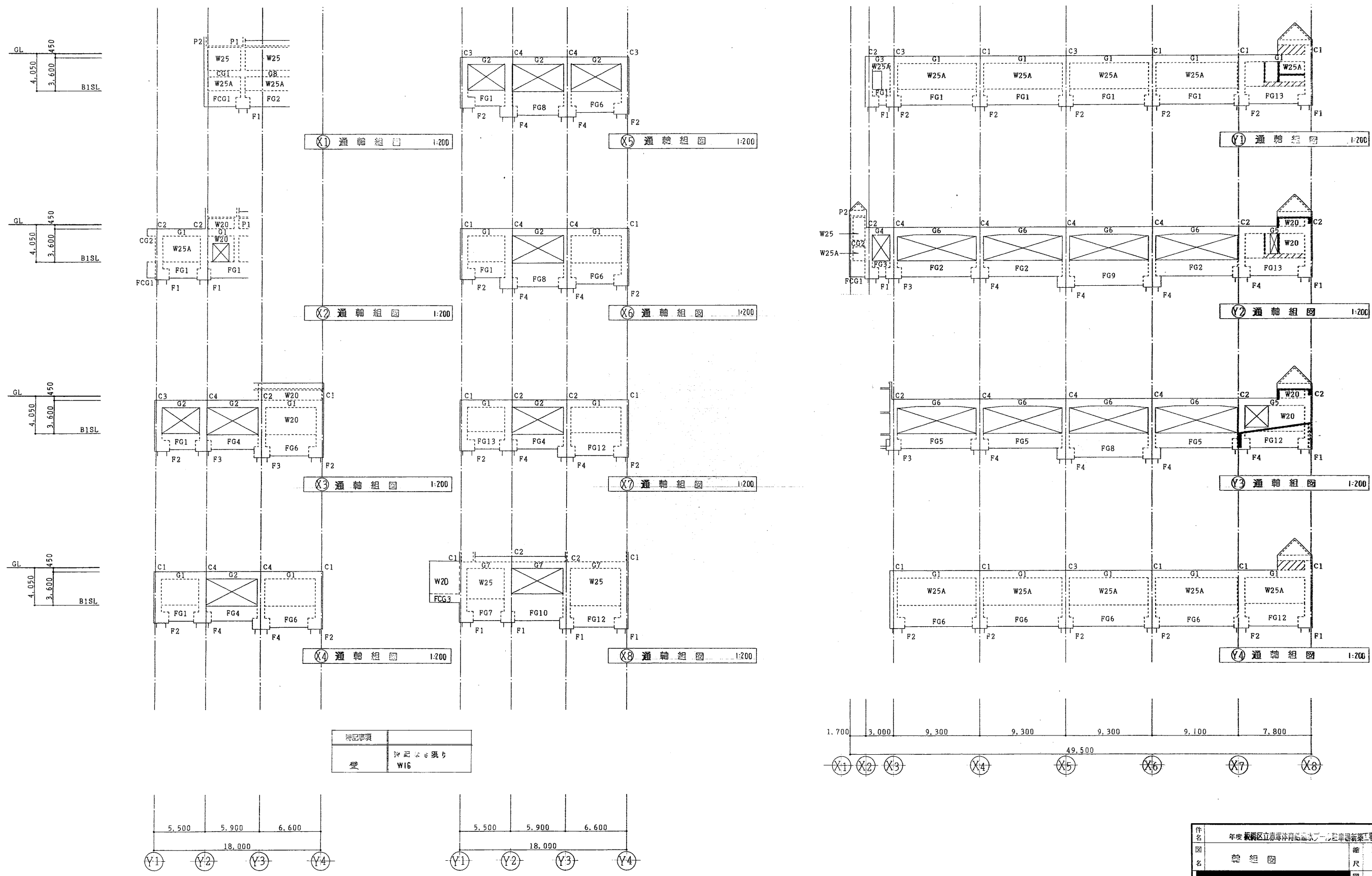
特記事項	
SL-	新設スラブレベル
—	特記なき限り
R階スラブレベル	GL+1.450

年度 板橋区立赤塚体育館ふれあい広場車庫新築工事 設計図

図名 杭位図、梁伏図 縮尺 1/200

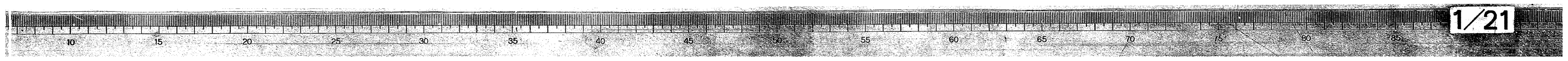
図番 S-6

板橋区建築環境部 繕課

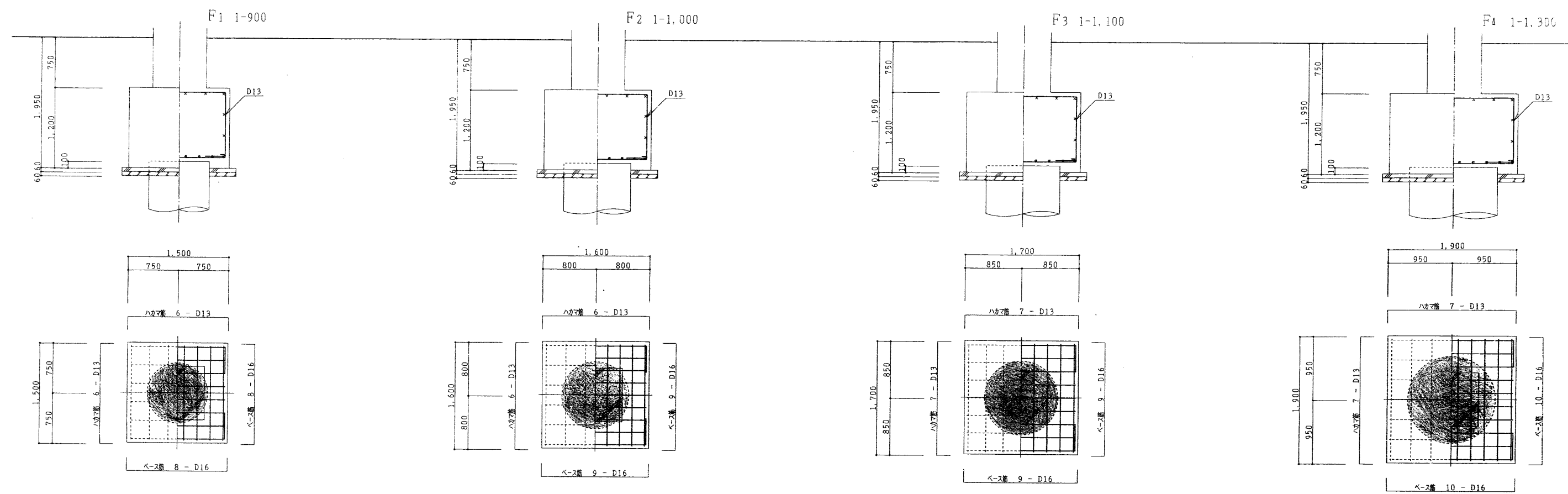


記号事項	
受	記号は誤り W16

件名	年度板橋区立赤塚体育館改修工事 設計図
図名	通軸組図
縮尺	1/200
図番	S-7
板橋区建築環境部営繕課	



筋列リスト 1:30



筋列リスト 1:30

特記事項 腹筋 D13 巾止め筋 D10-1000

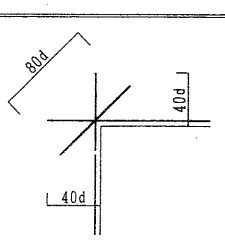
	FG1		FG2		FG3			FG4		FG5		FG6	FG7	FG8		FG9		FG10	FG11	FG12	FG13		FCG1
	端部	中央	端部	中央	X2端	中央	X3端	端部	中央	端部	中央	全断面	全断面	端部	中央	端部	中央	全断面	全断面	全断面	X7, X8	他	全断面
上端筋	4-D25	3-D25	6-D25	4-D25	3-D25	3-D25	6-D25	4-D25	3-D25	6-D25	4-D25	3-D25	3-D25	5-D25	3-D25	6-D25	4-D25	3-D25	4-D25	4-D25	5-D25	3-D25	3-D25
下端筋	3-D25	3-D25	4-D25	4-D25	3-D25	3-D25	4-D25	3-D25	4-D25	4-D25	4-D25	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	4-D25	4-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25
スタラップ	D13-φ200		D13-φ200		D13-φ200			D13-φ200		D13-φ200		D13-φ200	D13-φ200	D13-φ200		D13-φ200		D13-φ200	D13-φ200	D13-φ200	D13-φ200		D13-φ200

年度 板橋区立高島緑井中学校プール改修工事 設計図
 図 筋列リスト 相 1/30
 名 筋列リスト 尺
 板橋区 5-9
 板橋区建築環境部営繕課

小梁リスト 1:30 特記事項 腹筋 D10 巾止め筋 D10-@1000

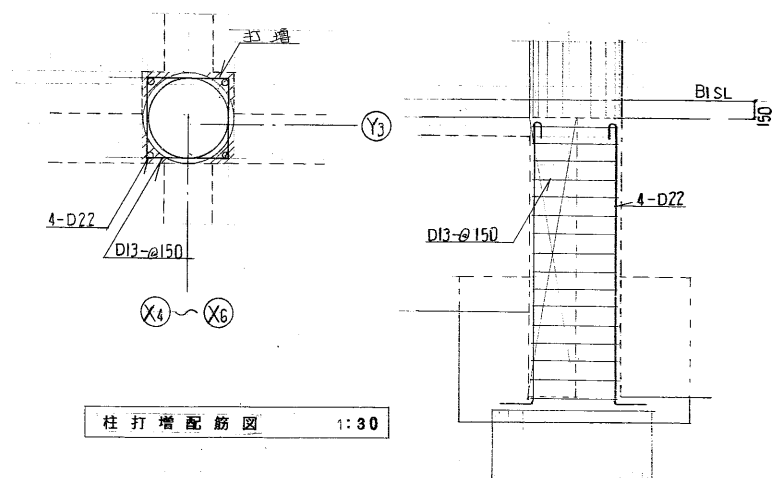
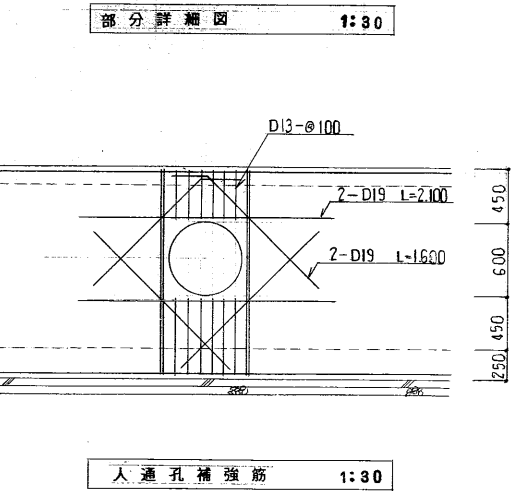
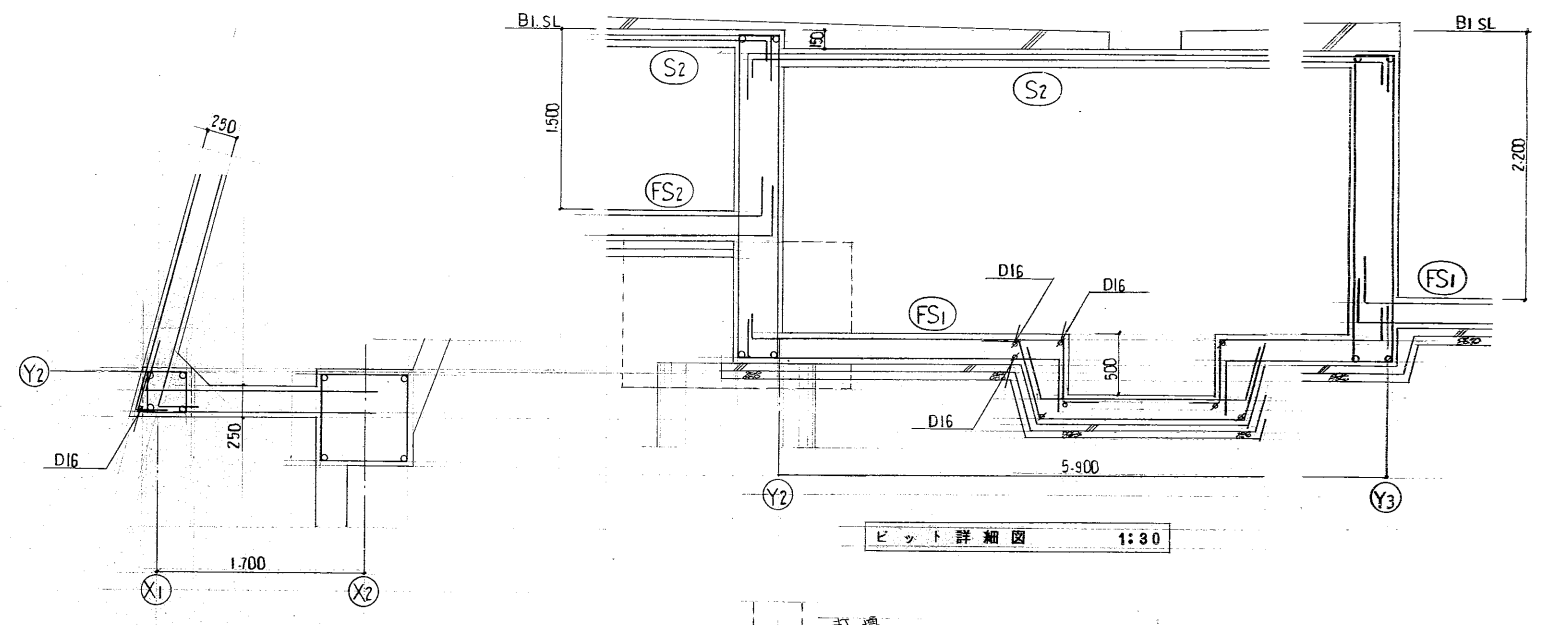
	B1		B2	B3		B4			B5		B6	B7	B8	B9	B10	FCG2	FCG3
	端部	中央	全断面	端部	中央	Y2, Y4端	中央	Y3端	端部	中央	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
上端筋	4-D22	3-D22	3-D22	4-D22	3-D22	4-D22	4-D22	8-D22	4-D22	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D25	4-D25
下端筋	3-D22	5-D22	3-D22	3-D22	5-D22	3-D22	5-D22	7-D22	4-D22	7-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D25	3-D25
スタラップ	D10-@200		D10-@200	D10-@200		D10-@100			D10-@100		D10-@200	D10-@200	D10-@200	D10-@150	D10-@200	D13-@200	D13-@200

壁リスト 1:30

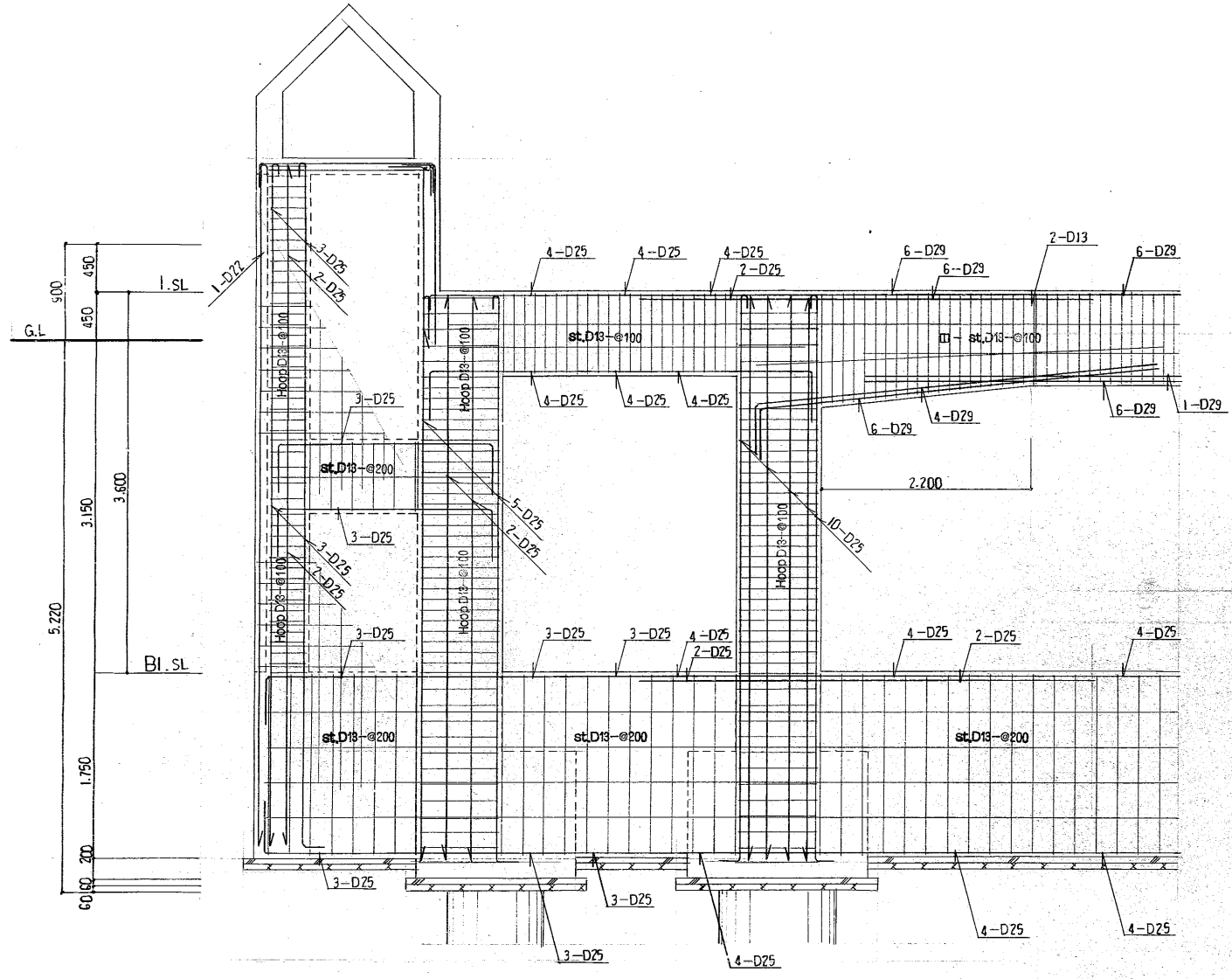
	CB 10, 15	W12	W16	W18	W20 W25	W25A	開口補強法
高さ	CB15 3.5m以下						
	CB10 2.5m以下						
上段の高さ 以上はハリ又は 腹筋を置く							
縦筋	D10-@400	D10-@200	D10-@200	D10-@200	D13-@200	D19-@200	
横筋	D10-@400	D10-@200	D10-@200	D10-@200	D10-@200	D16-@200	
定着長さ						40d	
縦筋	1-D13	1-D13	2-D13	2-D13	4-D16		
横筋	1-D13	1-D13	2-D13	2-D13	4-D16		
斜め筋		1-D13	1-D13	2-D13	2-D16		

床版リスト 1:30

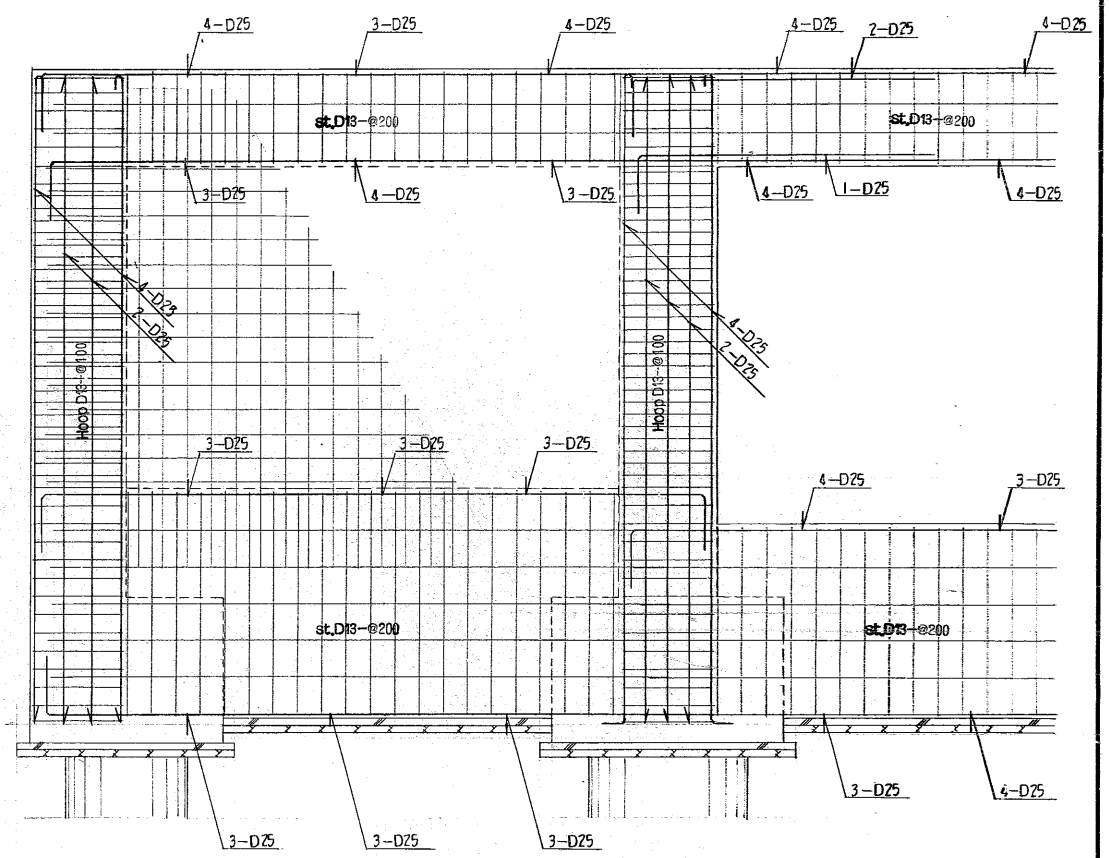
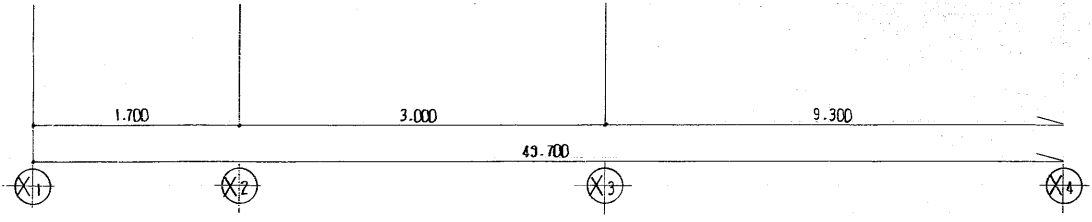
符号	床版厚	主筋		配筋	
		端部	中央	端部	中央
S1	180	上端筋	D13-@150	D10D13-@200	D10D13-@200
		下端筋	D13-@150	D10-@200	D10-@200
S2	150	上端筋	D13-@200	D10-@200	D10-@200
		下端筋	D10D13-@200	D10-@200	D10-@200
S3	150	上端筋	D10D13-@200	D10-@200	D10-@200
		下端筋	D10-@200	D10-@200	D10-@200
S4	150	上端筋	D13-@200	D10-@200	D10-@200
		下端筋	D13-@200	D10-@200	D10-@200
FS1	250	上端筋	D16-@150	D13D16-@150	D13D16-@150
		下端筋	D16-@150	D13-@200	D13-@200
FS2	250	上端筋	D13-@150	D13-@200	D13-@200
		下端筋	D13-@150	D13-@200	D13-@200
CS1	200	上端筋	D13-@200	D10-@200	D10-@200
		下端筋	D13-@200	D10-@200	D10-@200



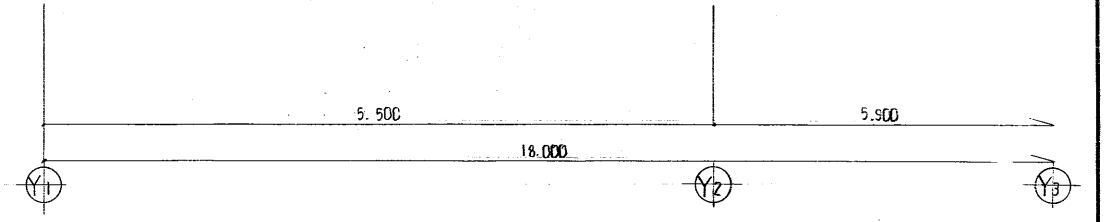
年度 板橋区立赤塚体育館ふろがら館増築工事 設計図
 小梁リスト 縮尺 1/30
 壁リスト、床版リスト 縮尺 1/30
 図番 S-11
 板橋区建築環境部営繕課



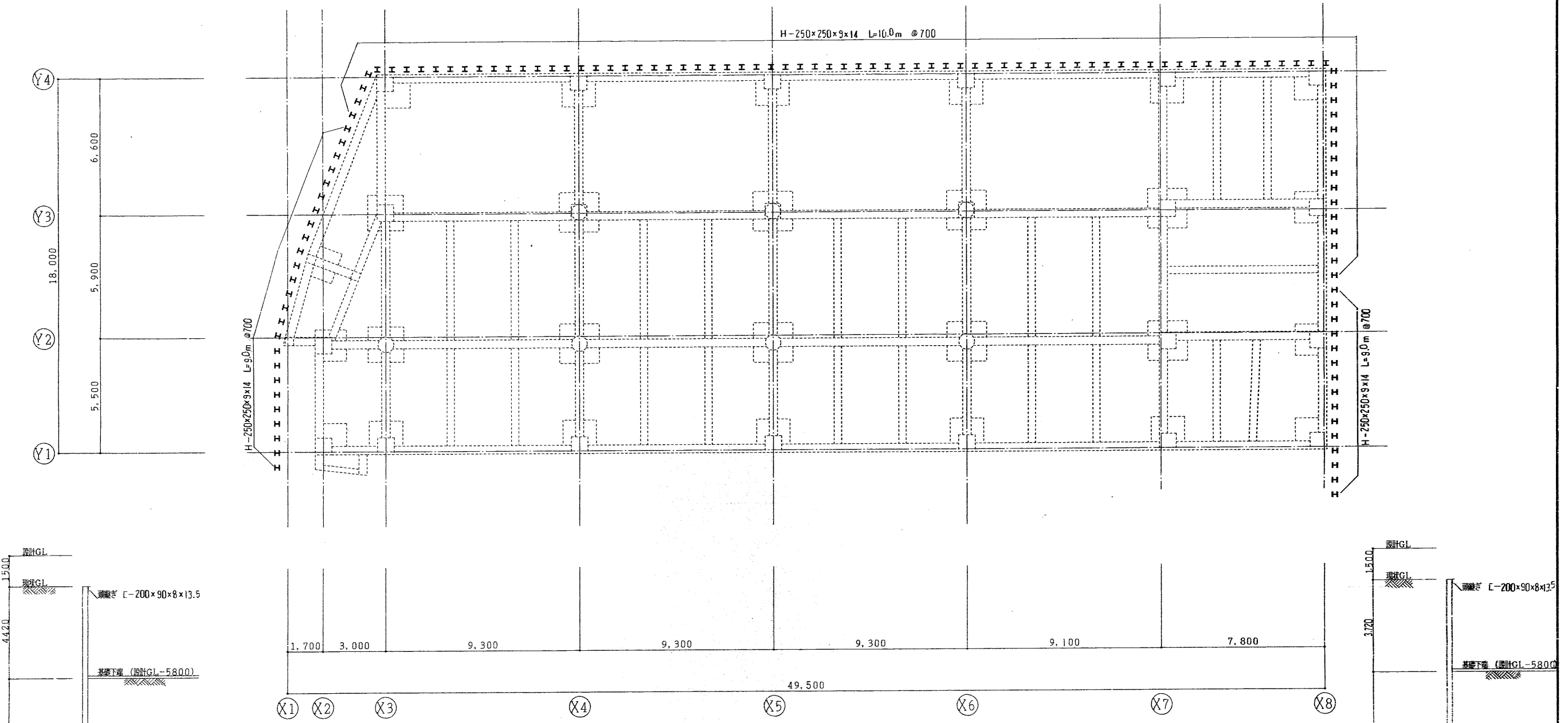
(Y2) ラーメン図 1:30



(X1) ラーメン図 1:30



件名	年度 板橋区立赤塚体育館2階増築工事 設計図		
図名	ラーメン図	縮尺	1/30
図番		図書	S-13
板橋区建築環境部営繕課			



工法 無筋コンクリート工法

縦杭	H-250x250x9x14 L=10.0m
	H-250x250x9x14 L= 9.0m
鋼筋	[-200x90x8x13.5
横矢板	板厚 3.0cm

山留め参考図 1/100

件名	年度 板橋区立環境部 設計図
図名	山留め参考図 縮尺 1/100
図番	S-14
課	板橋区建築環境部 営繕課

* 1/100